朝日カルチャー　野外の自然観察

新宮海岸と楯の松原　　2020.8.21

　コロナウイルスの拡散不安の上に連日の猛暑で出かけるのもためらわれるのに、観察場所が海岸！めげずに参加された方は７名。
２年前の５月にも同じコースで観察会をしていますが、３ヶ月違えば植物の種類も生育状況もずいぶんと違います。
　最初に入った林の中ではクズやセンニンソウ、カエデドコロなどのつる植物の花が咲き始め、暑さを覚悟しながら海岸へ出ると、ケカモノハシの穂が出そろい、焼けつくような砂地にオオフタバムグラやメリケンムグラが群生しています。スナビキソウはすっかり花が終わっていましたがずいぶんと生育地を広げています。

　今年は海の家も営業しておらず、町役場のスピーカーが「海で泳がないでください」と繰り返し放送していて♪誰もいない海・・です。
　砂地を歩くのは短時間にして、早めに松林の中に入ろうという計画でしたが、大きな松の木陰は海風が心地よく吹いて、目の前の海に設置されている消波ブロックに使われているテトラポッドの話題や、砂の移動による砂丘植物の根についての学習などでゆっくりとした時間を過ごしました。
　その後、ハマゴウの紫色の花や香りのよい実を楽しみ、カワラヨモギの糸のように細くなって濃い緑色になった秋バージョンの葉などを見て、松林の散策路に入りミズヒキやコヤブタバコ、咲き残っているタカサゴユリやママコナ、実になっているヒメヤブラン、白く咲き誇っているクサギの花を最後に、こんな時期だからということで午前中で観察会は終了しました。

担当　薛　　溝口（記）